

# 札幌市・北海商科大学と本学

## 包括連携協定に基づく三者トップ会談を開催



右から本学森下宏美学長、秋元克広札幌市長、堂徳将人北海商科大学学長

本学は2024年9月18日、札幌市および北海商科大学と包括連携協定を締結しました。2025年8月27日には、北海学園大学・国際会議場において、その協定に基づくトップ会談を開催しました。参加者は、札幌市から秋元市長をはじめ8名、北海学園大学から森下学長ほか8名(うち学生3名)、北海商科大学から堂徳学長ほか6名(うち学生1名)でした。

本協定は、札幌市と北海学園大学、北海商科大学の三者が連携し、札幌市の地域課題解決に向けて「知」と「人材」を政策に活かせないか、とい

いが、また両大学の学生を札幌市と協働して地域の未来を担う人材へと育成できないか、とい

教員と札幌市が支援する仕組みを整えています。今回のトップ会談では、札幌市より「第3期さっぽろ未来創生プラン」について説明をいただき、北海商科大学の池ノ上先生・千葉先生・澤内先生、本学の佐藤先生・藤田輔先生から活動報告がなされました。それに対し、秋元市長からコメントをいただきました。時間が都合上、トップ会談の十分な議論はできませんでしたが、これまで手探せたりで進めてきた内容を共にし、次年度の目標を定めることができました。それに対し、秋元市長からコメントをいただきました。その後の予定としては、今回実現できなかつた市長と、今回実現できなかつた市長と、改めて開催する予定です。

### 『北海学園大学×CACAO CAT』 チョコレート缶が発売



CACAO CAT 缶ミックス 10個入 北海学園大学

北海学園大学は9月16日より、CACAO CAT 缶ミックス 10個入 北海学園大学

材」の循環を生み出すことをテーマとしています。テーマを明確に掲げた包括連携協定は珍しく、特徴的なものとなっています。この協定が成立した背景には、札幌市が今後直面する人口減少社会と、それに伴うさまざまな課題への対応があります。準備段階の議論では、大学の持つ「知」を政策に活かせないか、とい

いが、また両大学の学生を札幌市と協働して地域の未来を担う人材へと育成できないか、とい

教員と札幌市が支援する仕組みを整えています。今回のトップ会談では、札幌市より「第3期さっぽろ未来創生プラン」について説明をいただき、北海商科大学の池ノ上先生・千葉先生・澤内先生、本学の佐藤先生・藤田輔先生から活動報告がなされました。それに対し、秋元市長からコメントをいただきました。時間が都合上、トップ会談の十分な議論はできませんでしたが、これまで手探せたりで進めてきた内容を共にし、次年度の目標を定めることができました。それに対し、秋元市長からコメントをいただきました。その後の予定としては、今回実現できなかつた市長と、改めて開催する予定です。

### 学生が自発的に行う研究活動を支援

この協定が成立した背景には、札幌市が今後直面する人口減少社会と、それに伴うさまざまな課題への対応があります。準備段階の議論では、大学の持つ

「知」を政策に活かせないか、とい

いが、また両大学の学生を札幌市と協働して地域の未来を担う人材へと育成できないか、とい

教員と札幌市が支援する仕組みを整えています。今回のトップ会談では、札幌市より「第3期さっぽろ未来創生プラン」について説明をいただき、北海商科大学の池ノ上先生・千葉先生・澤内先生、本学の佐藤先生・藤田輔先生から活動報告がなされました。それに対し、秋元市長からコメントをいただきました。時間が都合上、トップ会談の十分な議論はできませんでしたが、これまで手探せたりで進めてきた内容を共にし、次年度の目標を定めることができました。それに対し、秋元市長からコメントをいただきました。その後の予定としては、今回実現できなかつた市長と、改めて開催する予定です。

大学の持つ「知」を政策に活かし、学生を地域の未来を担う「人材」へ

う視点が重視されました。

協定締結後、三者は直ちに取り組みを開始しました。

う視点が重視されました。







「物価高に対する食の支援事業」の様子



「健康イベント」の様子

本学では、米などの食料品価格高騰の影響により、厳しい生活を余儀なくされている学生に対し、日本学生支援機構の助成を受けた「物価高に対する食の支援事業」を10月20日より24日、北海学園生活協同組合の協力のうえ豊平校舎および山鼻校舎で行つた。支援品レトルトのご用意はんカップラーメンなど4種のセット約500名分を、事前申込のあった学生に配付した。

また、医務室主催の「健康イベント」も同時開催し、多くの学生が参加した。

## 物価高に対する食の支援事業 および健康イベント実施

# 令和7年度「豊平会」総会・懇親会



今年も大いに盛り上がった懇親会

令和7年度同窓会「豊平会」総会・懇親会(同窓の夕べ)が10月25日、札幌パークホテルで開催された。総会に先立ち全国支部長会議が開催され、支部活動の報告・意見交換と、工学部・新沼准教授による「キャンパスから地域へー学生が挑むワイン研究と新たな広がり」と題した特別講演を行つた。

総会・懇親会には約550名が出席。はじめに、10月23日にプロ野球ドラフト会議で指名を受けた硬式野球部の工藤泰司さん(茨城県4位・経済学部4年)、高谷舟さん(オリックス5位・経済学部4年)、常谷拓輝さん(日ハム育成1位・人文学部4年)に花束贈呈があり、今後の抱負を述べた。学校法人北海学園安酸敏眞理事長は、旧友との近況報告や昔話に花が咲いた。

北海学園大学同窓会

北海学園大学同窓会報

北海学園大学同



## 研究室を訪ねて

法学部法律学科

瀬川 行太 準教授

【刑法II】

北海道大学大学院法学研究科博士後期課程修了。博士(法学)(北海道大学)。研究テーマは犯罪論における同時存在原則、危険の引受け。

瀬川 行太 準教授は北海道大学から同大学院にて博士号を取得し、これまで法学ひと筋という印象です。もともと法律に興味があったのですか?

—先生は北海道大学から同大学院にて博士号を取得し、これまで法学ひと筋という印象です。もともと法律に興味があったのですか?

瀬川 行太 準教授は北海道大学から同大学院にて博士号を取得し、これまで法学ひと筋という印象です。もともと法律に興味があったのですか?

本学で活躍する専任教員の研究を、その人となりとともに紹介する「研究室を訪ねて」。第二十一回は、刑法IIなどの授業を担当する法学部の瀬川行太准教授の登場です。

—そのおもしろさとは何ですか?  
瀬川 行太 準教授は北海道大学から同大学院にて博士号を取得し、これまで法学ひと筋という印象です。もともと法律に興味があったのですか?

## 条文との整合性をどう取るか

### 死刑制度について

死刑制度をめぐる問題の中で最大の争点は、死刑の存廃をめぐる議論です。死刑を制度上又は事実上廃止した国は100ヶ国以上に及び、世界的には死刑廃止の方向にあります。日本では、2024年の内閣府の世論調査によれば、「死刑もやむを得ない」と回答した割合は83.1%で、死刑存置論が世論の大勢を占めています。死刑の犯罪抑止効果に関する主張を除くと、死刑存置論からは、「死刑を廃止すれば、被害者やその家族の気持ちがおさまらない」、「凶悪な犯罪は命をもって償うべき」との主張がなされ、他方で死刑廃止論からは、「国家であっても人を殺すことは許されない」、「裁判に誤りがあったときに、取り返しがつかない」との主張がなされています。この問題を考えるにあたっては、なぜ国家が罪を犯した者に対して刑罰を科すことができるのかという点が重要ですが、死刑との関係ではいまだ見解の一致をみないのが現状といえます。

者でした。大学院進学や研究職を目指すことは理解のある環境で育つたので、その点は恵まれていたと思います。

—現在担当されている講義は刑法基礎と刑法IIです。

瀬川 行太 準教授は、日本刑法IIは、刑法各論といわれるさまざまな犯罪についてその事例、犯罪の成立要件や裁判例をまとめたレジュメを配り、それを元に説明しています。

—先生の研究テーマについて教えて下さい。

瀬川 行太 準教授は、「危険を認識したが、あえてそれを引受けた行為に出たところに、犯罪の成否が発生した場合に、犯罪の成否が発生したところで、第

## 大切なのは論理性と説得力

### 簡潔な条文から多様な解釈

### 同時存在原則





